

大正元年書目

石造水島

法廷報

一九〇一
外務省

附
信
類
添
附

大正元年五月拾六日接受

公信第二九號

大正元年十一月七日

在ニコラエウスク

領事館事務代理緒方整南

外務大臣子爵内田康哉殿

海
信
右

印
108827

露國造船獎勵法譯報ノ件

今般露國ニ於テ造船獎勵法制定セラレ明年
 露曆一月一日ヨリ施行、然ルガ同法ハ其ノ後
 一條ヲ一項但書ノ規定ニ依リ外國船舶輸入
 入無税ナル極東露領ニ施行セラズトモ
 毛獎勵人至多額ナルヨリ歐露ニ於ケル造船業
 ヲ刺戟シ延テ露國一般ノ海運業ノ發達ニ
 裨益スル所歟ナカズトモ思考スルニ付御參
 考マデニ別紙ノ通り譯出差進候致具

在ニコラエウスク日本領事館

譯文

朕國議院及国民議會ノ假賛ヲ経タルモ法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一九一二年五月二十一日、リワードヤニ於テ

ニコライ

國議院書記官元老院議官クルシヤフキリ署名

造船獎勵法

第一条 航洋商船ノ造船及修繕獎勵金下付規則ヲ尤ノ通り定ム

一、露西亞帝國ニ住所ヲ有スル造船業者ニシテ外洋ドウナイ河及同河支流ノ航行ニ從事セシムベキ金屬製船舶ヲ本法公布後起工製造シタル者ニハ其ノ船舶ノ露國港ニ船舶

在ニコラエウスク日本領事館

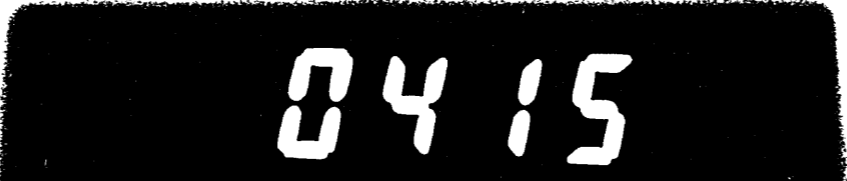
登録後每一隻ニ付一時造船獎勵金ヲ下付ス

但、芬蘭土及船舶ノ製造及修繕ノ為ノ必要ナル材料機械及其部分ノ輸入税ヲ免除シタル地方ニ於テ製造セラレタル船舶ニ關シテハ獎勵金ヲ下付セズ

二、造船獎勵金(噸一)ハ船舶ノ登簿噸數一噸ニ付左ノ割合ヲ以テ下付ス

一、機關ヲ有スル船舶

- 一百二十五噸以下 百五留
- 二百二十五噸以上三百噸以下 百留
- 三百噸以上五百噸以下 九十五留
- 四百五十噸以上七百二十五噸以下 九十留
- 七百二十五噸以上千噸以下 八十五留



六千噸以上千四百噸以下	八十留
七千四百噸以上二千噸以下	七十五留
八千噸以上三千噸以下	七十留
九千噸以上	六十五留
口 帆船但シ補助機関ヲ有スルモノヲ含ム	
一、百二十五噸以下	八十四留
二、百二十五噸以上三百噸以下	八十留
三、三百噸以上五百噸以下	七十六留
四、五百噸以上七百二十五噸以下	七十二留
五、七百二十五噸以上千噸以下	六十八留
六、千噸以上千四百噸以下	六十四留
七、千四百噸以上二千噸以下	六十留
八、二千噸以上三千噸以下	五十六留
九、三千噸以上	五十二留
三、造船獎勵金(第二)ノ外第一項ニ記載シタル船舶ニ新シキ主要又ハ補助汽機ヲ据付ケタル者ニハ汽機ノ一実馬力ニ付三十五箇ノ獎勵金ヲ下付ス	
四、船舶ノ修繕ニ當リ汽鐘 <small>(機ニ互ル管共)</small> ヲ新シキモノト入換ハタル者ニハ汽鐘ノ製造ニ要シタル金属一布度ニ付一箇五十哥ノ獎勵金ヲ下付シ主要又ハ補助汽機ヲ新シキモノト入換ハタル者ニハ汽機ノ製造ニ要シタル金属一布度ニ付五箇五十哥ノ獎勵金ヲ下付ス	
五、第二項才三項及第四項ニ記載セラレタ	

在ニコラエウスノ日本領事館

ル奨励金ハ本法公布ノ日ヨリ十年経過後一
 年毎ニ百ノ六ヲ減減ス
 六 奨励金下付ニ関スル事務ハ商工務省之
 ヲ統轄シ通商航海課之ヲ管掌ス
 七 本法ハ効力發生ノ時ヨリ十五年間之ヲ
 施行ス
 八 本則施行細則ハ商工務大臣ヨリ大藏大
 臣及會計検査院長ニ協議ノ上別ニ之ヲ定ム
 該細則ハ制規ノ手続ニ依リ元老院ヲ經テ公
 布ス
 第九 千九百八年七月一日起可外國船舶輸
 入税免除延期ニ関スル法律ハ千九百二十八
 年一月一日マテ之ヲ施行ス

在ニコラエウスク日本領事館

第三條 本法ハ千九百十三年一月一日ヨリ之
 ヲ施行ス

國議院議長エムアキーモフ署名

P

101314
27

文書課長
大正元年三月拾八日 接受

67

大正元年三月十八日 附
大正元年三月十九日 附

送第

主 通商局長



主 務

争書
校正
淨

大正元年三月拾九日 續済

通商局長

宛

通商局長

大正元年三月二十一日
通商局長
通商局長
通商局長

外務

(別紙在) 三月二十一日 日附本件ニ關スル報告書

通商局長
通商局長
通商局長
通商局長

通送付ノ事